

平成22年度第2回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会
5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨

日時：平成22年9月1日(水) 19:00~20:00

場所：琉球大学医学部附属病院 管理棟 大会議室

構成員：32名

出席者：19名

照屋 孝夫(琉大病院)、佐村 博範(琉大病院)、國仲 弘一(琉大病院)、新垣 久美子(琉大病院)、武富 孝子(琉大病院)、増田 昌人(琉大病院)、仲本 奈々(琉大病院)、照屋 淳(医師会病院)、仲村 実和子(医師会病院)、新崎 博美(中部病院)、宮里 浩(市立病院)、友利 寛文(市立病院)、比嘉 宇郎(市立病院)、外間 尚美(市立病院)、蔵下 要(浦添総合病院)、上地 博之(北部地区医師会)、仲田 清剛(中部地区医師会)、平良 豊(浦添市医師会)、喜納 美津男(那覇市医師会)

欠席者：13名

下地 英明(琉大病院)、白石 祐之(琉大病院)、上田 真(中部病院)、嵩下 英次郎(中部病院) 宮国 孝男(市立病院)、国吉 秀樹(中央保健所)、佐久川 廣(ハートライフ)、川畑 勉(沖縄病院)、大田 守仁(豊見城中央病院)、長嶺 信治(那覇西クリニック)、城間 寛(南部地区医師会)、打出 啓二(宮古地区医師会)、新村 政昇(八重山地区医師会)

[報告事項]

1. 平成22年度第1回5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨(資料1)
平成22年度第1回5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込み状況について(資料2)
2010年8月30日現在で、専門施設が14施設、かかりつけ施設が42施設と報告があった。
3. 那覇市立病院での地域連携パスの適用事例
宮里委員、外間委員より那覇市立病院で5大がん地域連携パスの運用を開始したとの報告があった。

[議題事項]

1. 5大がん地域連携クリティカルパス運用の問題点
医師が患者へ5大がん地域連携パスについて説明するのに1時間程度かかる。各専門施設の連携室の協力が不可欠との意見があった。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス運用の手引きの確認と改訂(資料3)
5大がん地域連携パスの運用数が増加した時に、問題点を集約し、必要に応じて改訂していくことが承認された。
3. 5大がん地域連携パス研修会の開催方法について(資料4)
5大がん地域連携パスを運用するために、専門施設で開始する必要があるため10回の研修会の内、4回は各専門施設(琉大病院、那覇市立病院、中部病院、北部地区医師会病院、浦添総合病院)で院内研修会を企画開催することが承認された。広報や場所の提供などは各地区医師会とも協力して進めることが承認された。また、必要に応じて部会委員が専門施設に出向き、院内研修会をサポートすることも可能との報告があった。
4. 送り出し患者を増加させる方法について(資料5)
内科での適用症例があるのではないかと意見があり、初めは外科である程度運用数をこなして広げて行き、その後に内科も運用して行く予定と報告があった。
病院の中でパスが浸透していない状況で、院外には話しづらい。連携室のスタッフ、看護師、実際運用する人たちも、交えて話し合いをすれば、もっと浸透するのではないかと。また、南部医療圏で地域

連携室のメンバーで集まって情報を交換行っているのので、そういった場を利用して、広めて行くのはどうかと意見があった。専門施設が受け身ではなく能動的に行う必要があるとの意見があり、専門施設から連携施設へ参加の呼び掛けを行っていくことが承認された。

5. 5大がん以外の地域連携パスの作成（前立腺がん）について（資料6）

ワーキンググループを新たに作ることが承認された。人選は、沖縄県医療機能調査の結果から手術症例の多い施設の医師を推薦して頂き、パスの様式は5大がんと同様の様式に統一にすることが承認された。完成したら運用ワーキンググループにて意見を伺うことが承認された。

6. 次回開催日程について

日時：平成22年12月1日（水）19:00～20:00

場所：琉球大学医学部附属病院 管理棟3階 大会議室

7. その他

専門施設側もかかりつけ施設側になる場合がある。現在、専門施設がかかりつけ施設側に登録している施設が4件しかいないため、参加登録を進めていってはどうかとの意見があった。

県立病院にも参加して頂くように事務局側から働きかける必要があるとの意見があった。特に、宮古病院や八重山病院は受け入れ側になって頂くよう進めていくとの報告があった。